

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ランナー →							植えつけ				
収穫											

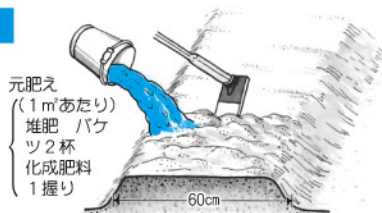
日当たりがよく、地力があって、やや湿りけの多い土を好みます。過湿地では高畝にします。根は、浅く張るので乾きに弱い
ため、水やりやマルチングをして乾燥を防ぎます。

親株からランナーが発生して、先端に子苗が次々につき、1株から30~50本もの子苗ができます。よい実をならせるには、この子苗を毎年育てて植え直します。苗は、寒さが来る前に根が伸びるように、10月中~下旬に植えつけます。植えるときには、中心にある芽に土をかけないようにします。

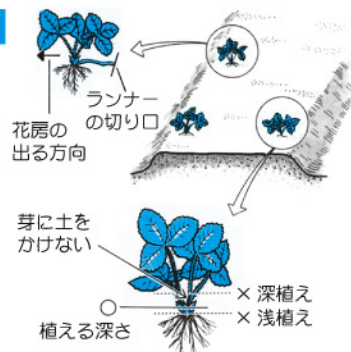
たくさんとれたときは、ジュース、ジャム、果実酒などに利用しましょう。

ビタミンCが豊富で、直射日光に当たって成熟したイチゴほど多量に含んでいます。

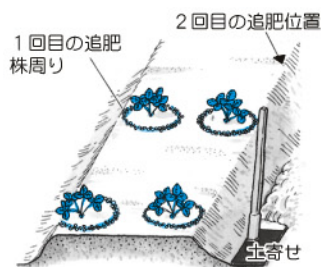
肥えあたりしないように、植えつけの2週間前に畑の準備をする。苦土石灰を1㎡あたり2握りまいて土をよく耕しておき、畝全体に元肥えを施してベッド畝を作る。



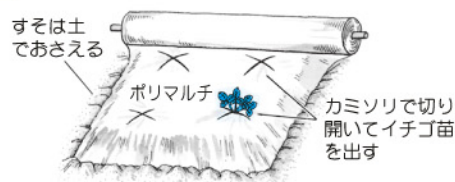
10月中～下旬に、本葉6～7枚の苗を植える。浅植え、深植えしないこと。親株側のランナーの切り口を、畝の内側に向けて植えると通路側に花房がそろい、果実が収穫しやすくなる。



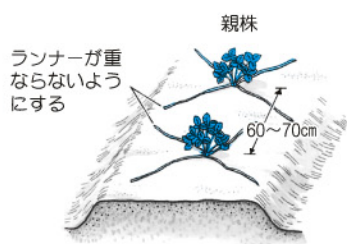
苗が根づいて生育を始めたころ（11月上～中旬）に、化成肥料を軽くばらまき、中耕をする。2回目は2月中旬に、1株あたり軽く半握りぐらいの化成肥料を、畝の肩に施して土寄せをする。



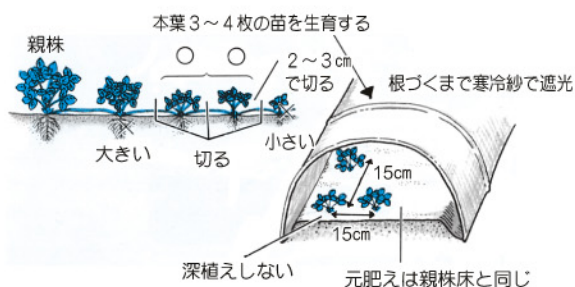
追肥後、ポリマルチを
すると、乾燥が防げて生
育が早まり収穫が多くな
る。



収穫が終わったあと、来年用の子株をとるために健全な株を選び、親株床に植える。親株床には、あらかじめ苦土石灰（1㎡あたり2握り）を施し、バケツに2杯の堆肥と1握りの化成肥料を全面にまいてよく耕し整地しておく。



6～7月に、親株からランナーが発生して、子株ができる。8月下旬～9月上旬にランナーを切って、子株を仮植床に植え、40～50日育苗する。大きすぎや小さすぎる子株は使わない。子株を仮植せずに、親株につけたまま定植まで育ててもよいが、苗が不ぞろいになる。



◆病気 灰色かび病、うどんこ病
◆害虫 ハダニ、アブラムシ、ヨトウムシ、ナメクジ